

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4571900309
法人名	医療法人 朋詠会
事業所名	グループホーム コスモス苑
所在地	宮崎県東諸県郡綾町大字南俣1116番地 (電 話) 0985-30-7855
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成19年10月29日

【情報提供票より】(19年10月 8日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 2月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 18 人, 非常勤 2人, 常勤換算 14人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	階建ての 1 階 ~ 1 階部分		

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000	円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)		☒ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ☒ 無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1100 円			

(4)利用者の概要(10月 8日現在)

利用者人数	16 名	男性	4 名	女性	12 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.8 歳	最低	80 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	獅子目整形外科病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事務室を中心に東・西棟の2ユニットにわかれており、ホームは平屋で外観は和風造り、玄関は格子戸が使われ家族的な趣がある。各居室は南に面しており、採光や風通しも良い。居間にはソファやテレビが置かれ入居者がゆったりとくつろげる場所になっている。ホームには広大な庭もあり、近隣の保育園に使ってもらい園児と入居者の交流につなげている。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	定期的に担当者を中心に介護計画を立てケアマネジャーや管理者を含め全職員で話し合いプランを作成している。また、日々の申し送りの中で緊急懸案がある場合は話し合いその都度ケアに活かした対応が行われている。家族会や運営会議で提案された意見に対しても対応できるよう取り組みが行われている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者を中心に全職員の意見を聞いて作成している。自己評価を行うことにより日頃気づかなかった点を明確にし利用者へ対するサービスの質の向上に向けた取り組みがなされている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	行政職、民生委員、自治会の代表、家族会の代表、事業所職員などの参加のもと、3ヶ月に1回定期的に運営会議を開催している。会議では提案された要望や意見に沿って事業所がより良いサービスの提供ができるよう検討しサービスの向上に努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日々の生活がわかりやすいよう家族宛に月1回日記形式でホームでの様子を便りとして作成し報告している。また、定期的に誕生会などのイベントを行いその様子などについても、家族便りを発行するなど積極的に取組んでいる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の文化祭に利用者の作品を提出したり、地域の祭りに参加したり近くの保育園の行事などにも参加し積極的に交流を深めている。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者の研修を機に、従来の理念を基本にスタッフ全員で自分たちの言葉で具体化したものを作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝申し送りの後に理念を復唱し、職員間で日常的に理念の実現にむけ話し合いを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭に利用者の作品の展示をしたり、祭りや地域の活動に参加している。また、近くの保育園の行事などにも参加し交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員個々が評価を行いさらに職員全員で評価を行うことで日頃気づかなかった点を把握し改善に向けた取り組みがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政職、地区公民館長、民生委員、家族会の代表、事業所職員の参加のもとに定期的に会議を開催し会議であがった意見等を参考にケアに活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に行政職の方が参加するようになり行政の担当者と意見交換が円滑になった。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1ヶ月の様子を日記形式で記載し、家族にお知らせしたり、約3ヶ月1回の頻度で誕生会などのイベントを企画しその様子などを便りにして報告している。		職員の異動については新規採用者は家族来訪時に紹介をしているが、便りなどを利用した紹介も行えると遠方にいる家族にもより周知しやすいのではないだろうか。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議に家族代表者が出席し意見や要望を聞いている。また、意見箱の設置や家族来訪時に受けた意見、相談、苦情等については職員全員で話し合いケアに活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在職員の異動、離職の状況はないが、新規採用等があった場合は、現職員に指導を仰ぎ慣れるまで共に仕事を行い、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な外部への研修を受ける機会が確保できており、研修会に参加した職員は伝達を行い全職員が把握できるよう努めている。また、認知症以外の防災に関する研修なども積極的に行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣に同業者が無い場合ため交流を図る機会が少ない状況である。	○	地域ブロックのグループホーム協議会などを積極的に利用し勉強会、相互訪問など取り入れサービスの質の向上に向けた取り組みを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用にあたり見学や体験入所は可能で、入居前訪問なども行いに徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔と今の生活の違いなど話を伺い学ぶことも多く、また訴えには寄り添い耳を傾け、表情等からその時の気持ちに共感できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一日の生活の流れの中でも本人の希望や意向の把握に努め対応している。また、家族にも情報をいただき意向の把握に努めておりアセスメントシートにも記載し対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向をもとに担当者が計画したものをケアマネを含め全職員で話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に計画を作成している。また、毎日の申し送りなどで個々のプランの実施状況の確認を行い変化が生じたときには状況にあわせ対応できるよう話し合いを行い、新たな介護計画を作成している。		さらに状態の変化のない場合、月に1回程度、介護計画の見直しを行ない、ケアの質の向上に活かしてほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院などは基本的に家族対応であるが要望があれば対応できるようにしている。また、美容師の資格を持った職員がおり、利用者の希望があれば対応できるように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向があれば協力医療機関も含め適切に医療が提供できるよう支援している。また、往診もお願いしたり柔軟な対応ができています。		地域に密着したホームとして、近隣の医療機関との連携づくりもさらに充実されるよう期待したい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向に従い、終末期ケアについて家族・医師などと話し合いを行っている。また、母体病院の協力体制も充実している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りや立場を大切にした言葉かけや対応をしている。記録の取り扱いを含め個人情報においても十分留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生け花、ちぎり絵など利用者個々の意見を取り入れながら個々のペースに合わせた行事等も企画して支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が徐々に機能低下して一緒に準備できることが少なくなっているができる範囲でお手伝いを頂いたり一緒に楽しみながら食事を取っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は設定されているが希望があればその都度入浴することができる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者によっては洗濯物をたたんでいただいたり、生け花やちぎり絵などの活動を行い楽しんでいただいている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	スタッフと共に買物に出かけたり、ドライブなどに連れ出したり希望があれば散歩など行えるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夕方の施錠は行っているが日中は自由に出入りが可能であり玄関、居室等鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	業者と定期的な消防訓練を行い職員も防火研修会に参加している。地区の消防団や近隣に以前勤務されていた職員さんもいっしょり地域の人々など協力が得られるよう働きかけている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体病院の管理栄養士と食事量や栄養バランスについて一人ひとりの状況に応じた支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間のスペースは十分でゆっくりくつろげるスペースも確保されている。また、採光も十分ありソファの設置など明るく心地よく過ごせる設備になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室が明るく個々に家具やテレビなどを持ち込まれて本人が心地よく過ごせるような工夫がなされている。		入居者によっては馴染みの物が少ない居室があるので、継続して本人らしい居室作りを期待したい。